

目的. 緋文様は多種多様であり、時代の社会情勢や政治、経済、文化をよく現わすと共に、その土地の伝統や人間の個性を如実に物語っている。山陰地方の緋文様の変遷と特長については、すでに報告した通りであり、今回は、明治期に於ける伊予緋の文様と、山陰地方の文様と比較検討をしながら、地域的な文様の特長を究明しようとするものである。

方法. 同年代に製織した緋の寝具を対稱に、数百種の実物調査を行ない、文様を分類した。また、古老の意見も記録した。

結果. 寝具文様に於ける線の直線、曲線の構成部分に、地域的特長を見出した。山陰地方の緋は、複雑で甘っ曲線構成から成るものが多く、伊予緋は、全般的に単純化した直線構成の部分に特長をみせる。また、同種の鶴亀文様について考察すると、山陰地方の鶴亀は繊細な写生を主体にしたものが多いが、伊予の鶴亀は、デザイン化したり、直線を部分的に組み合わせたものが多くみられた。

以上の結果は、土地の人間の個性や伝統を示すものであり、地理的文化交流の深い南方系のパターンの影響も考えられる。また、山陰地方の曲線で緯緋の技法は、中国文化の影響もあり、あらゆる要素を加えた文様である。